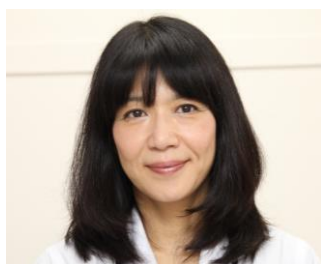




奈良県立医科大学眼科ニュースレター Vol. 12

ご挨拶

教授 緒方奈保子



11月20日過ぎに東京で雪が降りました、今年は寒い冬が来そうです。

皆様1年間いかがお過ごしでしたでしょうか？

今年、ビックリしたことの1つが、アメリカ大統領選挙の結果です。まさか、トランプ氏が僅差で勝利を収め、来年4月より大統領とは！全く個人的な感想で、ご批判を浴びるかもしれませんが、何となくクリントン氏では面白くない4年間が続きそうな気がしていましたので、改革を望む人たちがトランプ氏を選んだ気持ちも少しわかるような気がします。きっと公言しない隠れトランプ氏支持者が多かったんじゃないかと思います。確かにトランプ氏なら変革、改革が行われるかもしれません（良きにつけ悪きにつけ）。今後アメリカが変わるということは世界が変わるということに等しく、新大統領の政治手腕に世界中が注目することになるでしょう。私もトランプ大統領が何をするかとても興味があります。以前に訪れたニューヨークのトランプビルやラスベガスのまさしく黄金色のトランプホテルが目につかびました。まさかホワイトハウスを黄金色にしたり、なんてことは無いと思いますが。

どの世界でも改革が必要とされていますが、新しい専門医制度の開始は1年延期されることになりました。眼科に関しては、既になりに良いシステムとして専門医制度がつくりあげられてきていましたので、極端な変化はなさそうですが、十分に検討がなされて本当の良い専門医制度が確立することを願います。

日本の保険医療制度は独特のものです。最先端の素晴らしい医療を非常に安い自己負担で、なおかつ万人が平等に受けることができる世界で唯一の国ではないかと思います。しかし、地方での医師不足は深刻で医師の自己犠牲によって医療が成り立っているところもあると思います。奈良県の医師数を増やすには、まずは奈良県立医大の教育機関、研究機関としての充実と発展が必要です。いま奈良県立医科大学の新校舎設立にむけての計画と事業が進んでいます。昨年同様に寄付申し込み案内が届いた方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか？細井学長・理事長がメッセージを書かれています。ふるさと納税制度を利用した寄付です。同窓会の先生方には眼科学教室へのご寄付とともにこちらもよろしくお願い申し上げます。

講演会

第12回奈良県眼科万葉フォーラム

平成28年10月1日に橿原ロイヤルホテルにて第12回奈良県眼科万葉フォーラムが開催されました。いつも同窓会の先生方には多数ご参加頂き誠に有難うございます。今回は特別講演として二人の先生にお越し頂きました。

最初にご講演頂いたのは、Johns Hopkins 大学の Gerard A. Luty 教授で、万葉フォーラムでは初めての英語での講演となりました。「Death of choriocapillaris in a pro-inflammatory milieu」というタイトルでご講演頂きました。ご講演では、萎縮型や滲出型加齢黄斑変性の発症に、脈絡膜毛細血管板の障害が関与していることや、肥満細胞などが脈絡膜で活性化することによる慢性の炎症が加齢黄斑変性の発症に関与することなどを、ご自身の基礎研究のデータを多数お示しになりながらご講演頂きました。

次にご講演頂いたのは、名古屋市立大学大学院医学研究科視覚科学准教授の安川力先生で、「加齢黄斑変性の病態と日常診療のコツ」というタイトルでご講演頂きました。安川先生が考えておられる加齢黄斑変性のメカニズムを中心にお話し頂きました。ご自身の基礎研究の専門的なデータを、様々な例えを交えて非常に分かりやすくご説明頂き、また加齢黄斑変性の日常診療におけるコツについてもお話し頂きました。

今回は加齢黄斑変性研究のスペシャリストであられる、お二人の先生に異なった切り口から加齢黄斑変性の病態についてご講演頂き、大変勉強になりました。



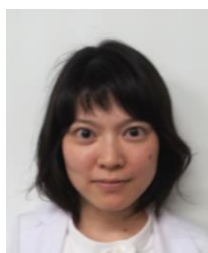
ご講演中の Luty 教授



ご講演中の安川先生

人事異動のお知らせ

平成 28 年 7 月より大学の山下真理子先生が済生会中和病院へ異動され、それに伴い済生会中和病院の益田尚典先生が大学に戻って来られましたので、今回異動されました先生方に、これからの意気込みを語って頂きました。



山下 真理子 先生（平成 24 年入局）

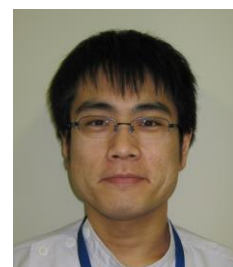
今年の 7 月から済生会中和病院に赴任いたしました。2 年間の初期研修を含めてこれまでずっと大学で過ごしておりましたので、大学から出るのは医師 7 年目にして今回が初めてです。現在は一人常勤で、ひっそりとマイペースにやっております。病院には毎日、大学病院や関連病院の偉大なる先生方がお手伝いに来てくださっており、本当にありがたく感じております。看護師さんや ORT さんにも助けられ、よくしてもらっていますが、何せ一人で私自身まだまだ力不足ですので、できることには限りがございます。近隣病院始め、諸先生方には大変お世話になっております。地域医療に少しでもお役に立てるようにがんばりますので、これからもご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



益田 尚典 先生（平成 25 年入局）

1 年 3 か月という短い期間、済生会中和病院で勤務させていただきましたが、2016 年 7 月より再び大学での勤務となりました。中和病院では日々外来と硝子体注射、白内障手術に励む毎日でしたが、大学では硝子体手術を緒方教授の指導のもと、鍛錬させていただいております。また、大学院生でもあり研究の方も腰を据えて行うことができるようになりました。これからはより一層努力して参りたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

学位取得の報告



後岡 克典（平成22年入局）

この度、マウス網膜へのレーザー照射により脈絡膜新生血管を惹起する脈絡膜新生血管モデルにおける、ヘッジホッグシグナルの発現に対する研究で学位を取得させて頂きました後岡と申します。私は、眼科に入り数年も経たないうちに社会人大学院生として大学院に入学し、奈良医大第2解剖学教室にお世話になり、基礎研究に携わらせて頂けることになりました。

最初は戸惑いしかありませんでした。眼科医局の皆様に自分が抜ける為にかかるご負担が気になり、また教えて頂く第2解剖学教室の皆様のご尽力に恐縮し、眼科医としてまだまだ未熟である自分が研究をすることで患者様に被らせてしまう不利益を心配し、本当に自分は院生として研究を続けていいのか不安な毎日でした。そんな自分を周りの皆様は温かく見守り、サポートして下さい、沢山励まして頂きました。

厳しくも研究に邁進すべき姿勢を崩さず、いつも激励して下さい下さった緒方教授、また自分が不在の為おろそかになる業務を快く引き受けて下さった諸先輩方や後輩の先生達、研究に必要な資料や連絡など迅速に用意、施行して下さい下さった秘書様、本当に感謝しております。また、研究においてひよこどころか卵の状態で突入したにも関わらず、また眼科領域という新しい分野にも怯まず、私の右往左往する研究内容にも根気よく付き合して下さい、背中を押し続けて下さった第2解剖学教室の和中教授、辰巳准教授やスタッフの皆様、時に叱り時には温かく一緒に居て下さった時間はまるで家族の様でした。言葉にできないほど感謝に堪えません。

皆様のおかげで何とか学位取得まで達することが出来ました。いま思い返すと情けない思い出ばかりが浮かびますが、自分の人生において二度と得難い大変貴重な時間、経験だったと思います。（もうこの先こんなに勉強することもないかもしれません…）

今後はこの経験と知識を糧に、眼科医としてよりたくさんの患者様のお役に立てるよう精進してまいり所存です。今後ともよろしくお願い申し上げます。

論文アクセプトの報告

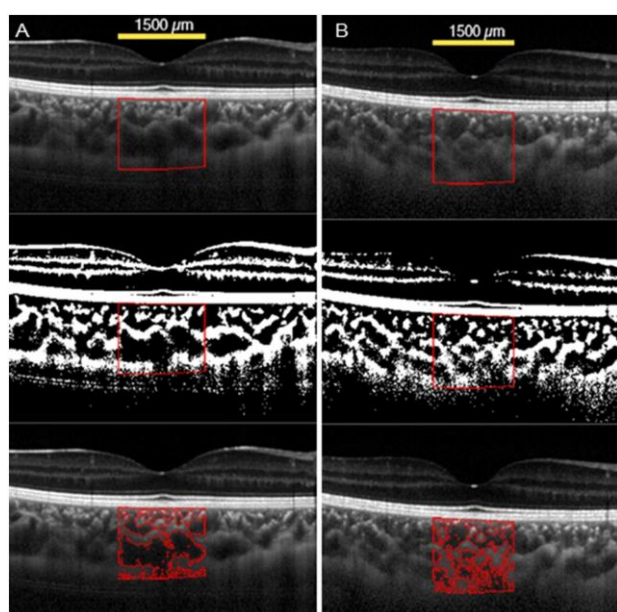
西 智 (平成 14 年入局)

Choroidal Structure in Children with Anisohypermetropic Amblyopia Determined by Binarization of Optical Coherence Tomographic Images.

PLoS One. 2016 Oct 13;11(10):e0164672. doi: 10.1371/journal.pone.0164672

小児の遠視性不同視弱視症例の脈絡膜構造を解析し、健常群との比較を行った論文が Plos One に掲載されましたので、報告させていただきます。以前に、小児の遠視性不同視弱視眼では中心窩下脈絡膜厚が厚いことを報告しました(Nishi, BJ02014)。今回は、脈絡膜の2階調化により、管腔領域と間質領域に分けて弱視眼の脈絡膜の構造解析を行いました。対象は奈良県立医科大学付属病院と徳島大学付属病院と鹿児島大学附属病院を受診した遠視性不同視弱視 40 例 80 眼、年齢をマッチさせた健常群 103 例 103 眼で、弱視群は治療開始前の時点で検査しました。中心窩を中心とする $1500\ \mu\text{m}$ の脈絡膜全体の面積と管腔成分と間質成分に分けた面積で比較検討を行いました。結果、管腔成分が弱視眼で $417454 \pm 90671\ \mu\text{m}^2$ 、僚眼で $323500 \pm 78393\ \mu\text{m}^2$ 、健常遠視眼で $375954 \pm 74564\ \mu\text{m}^2$ で、弱視眼で有意に大きいことがわかりました。また、間質成分は、弱視眼で有意に小さいことがわかりました。弱視眼は調節力が弱いことが知られています。管腔成分が大きく、間質成分が少ないのは、中心窩に存在する脈絡膜平滑筋が少ない可能性があり、脈絡膜平滑筋が少ないために弱視眼の調節力が弱い可能性もあり、今後も研究していく所存です。

今回の論文掲載におきましては、緒方教授をはじめ、医局の先生方と共に、徳島大学、鹿児島大学の先生方にも多大なご尽力を頂き、大変感謝しております。今後も臨床、研究ともに医師として精進していきたいと思いをします。



Enhanced depth spectral-domain optical coherence tomographic (EDI-OCT) images of the choroid of an amblyopic eye and a control eye.
(A) Representative image of the amblyopic eye. The amblyopic eye has large luminal area. (B) Representative image of the control hyperopic eye.

第70回臨床眼科学会報告

竹内 崇（平成28年入局）

この度は医局の先生方に多大なご高配を頂き、11月3～6日の4日間、国立京都国際会館にて開催されました第70回臨床眼科学会に参加させて頂きました。「光覚消失するもステロイドが奏効した抗MOG抗体陽性視神経炎」というタイトルで発表させて頂きました。研修医の時に一度、学会に連れて行って頂き先輩方の発表を見学させて頂いたことはあるのですが、私自身は初めての発表でした。本番前は緊張して汗をかきましたが、緒方教授、小島先生はじめ、ご指導頂いた先生方のおかげで無事終えることができました。

今回は京都での学会のため最初は自宅から通いましたが、朝8時半ごろに会場に着いても希望のチケット制の講義はほとんど満席で予約が取れませんでした。発表の前日は宿泊して、翌朝のモーニングセミナーに間に合うように会場に行きましたが、希望のインストラクションコースは受けることができませんでした。参加者の多さと、朝の早さに驚いた学会でした。しかし、多くの講演を聞いたり機械展示を見学したり、合間に京菓子和抹茶を頂いたり、有意義な時間を過ごすことができました。また学会に参加できるように、日々精進して参りたいと思います。



臨床眼科学会の報告

平井 宏昌（平成28年入局）

先日京都で開催されました第70回日本臨床眼科学会に参加させて頂きました。私自身も症例発表の機会に恵まれ、発表させて頂きました。これまでも学会には、研修医期間中に整形外科学会に参加する機会がありましたが、眼科の学会に参加するのは初めてのことであり、大変興味深い体験ができました。非常に広い会場にたくさんの先生方が一般公演やポスター展示等で自身が受け持たれた症例や研究テーマについて発表されており、それぞれに面白い着眼点があり、そのような見方があったのかと気付かされることが多々ありました。今後も眼科の新たな一面に触れることができるこのような学会に参加していきたいと思いました。



開業のご案内

平成28年5月1日に宇陀市立病院で眼科部長をしておられた夏目恵治先生が大阪府堺市堺区で、なつめ眼科・形成外科を開業されましたので、ご紹介させていただきます。

開業に際して

夏目 恵治

私は平成4年に近畿大学医学部を卒業後、近畿大学形成外科教室に入局し、形成外科医として、専門医と学位を取得しました。その後、ご縁があり平成17年の7月から奈良県立医科大学眼科学教室に入局させて頂きました。前任の原教授ほか医局員の方々に指導して頂き、充実した日々を送らせて頂きました。その時のことを、今でも懐かしく思い出します。そして平成20年7月から宇陀市立病院に赴き、7年あまり勤務させて頂いた後、平成28年5月に堺市堺区にて、なつめ眼科・形成外科クリニックを開院しました。



クリニックは、自宅から徒歩でも可能な場所にあることから、通勤の手段として、マイカー、徒歩、バスの3通りで通勤しています。スタッフも看護師1名、視能訓練士1名、他2名おり、電子カルテで診療に従事しています。これからも引き続きがんばっていききたいと思いますので、ご指導のほど何卒宜しくお願いします。

手術室移転のお知らせ

今秋これまで使用してきた A 病棟の手術室の老朽化に伴い、新しく建築された E 棟に手術室が移動しました。

新しい手術室は、「最先端の手術や最新の医療機器に対応可能な手術室」という触れ込みではあるのですが、眼科としては今のところ移転前と手術機器は同じです。しかし新しい手術室は、清潔で明るく広い

ため、みんな気持ちよく手術を行っています。

またこれまでも、手術室の映像を医局で見ることが可能でしたが、新しい手術室になり、こ

れまでのアナログの映像がデジタルに変わり、より鮮明な画像を医局から見ることも可能になりました。移転に伴うトラブルもなく、これまで通り順調に手術を行っています。手術が必要な症例がありましたら、引き続きご紹介のほど何卒よろしくお願い致します。



奈良県立医大 眼科外来診察表

		月	火	水	木	金
1診	午前	丸岡	上田	手術日	緒方	手術日
	午後	角膜外来	網膜硝子体外来	専門外来	網膜硝子体外来	専門外来
2診	午前	辻中	岡本	手術日	小島	手術日
	午後	角膜・黄斑外来	緑内障外来	専門外来	眼循環外来	専門外来
3診	午前	益田	西	手術日	吉川	手術日
	午後	黄斑外来	小児・神経眼科外来	専門外来	緑内障外来	専門外来
4診	午前	西川	宮田	手術日	峯 (第1・3・5) 大萩 (第2・4)	手術日
	午後		黄斑外来	専門外来		専門外来
5診	午前		中尾	手術日	小林 (第1・3・5) 増田 (第2・4)	手術日
	午後			専門外来		専門外来

- ・専門外来は完全予約制です。
- ・初診の場合はまず、月・火・木の外来を受診するようお願い致します。
- ・地域連携の予約は月・火・木が5名、水・金は3名可能となっております。

編集後記

平素は奈良県立医科大学眼科学教室の運営にお力添え頂き、誠に有難うございます。ニュースレターは、今回で12回目の発行となりました。ニュースレターでは引き続き、同窓会の諸先生方からのご投稿をお待ちしております。先生が日頃感じておられることや、大学への要望など、どのような内容でも結構です。何なりとご投稿頂ければ幸いです。ご投稿、ご質問などは下記メールアドレスまでよろしくお願い致します。

smaruoka@naramed-u.ac.jp 奈良県立医科大学 眼科 丸岡真治 (平成10年入局)